



関節した脚の化石(三畳紀後期・アルゼンチン・イスキグアラスト層)

這い歩き、二足歩行、指行性

建築博物教室 第15回 公開ギャラリーセミナー

脚のアーキテクチャ

化石から探る歩き方の進化

久保 泰(東京大学総合研究博物館 特任助教/古生物学)

日時：2018年1月20日(土) 13:30~15:00

会場：東京大学総合研究博物館小石川分館2階「空間標本」展示室

入場：無料(事前申込不要)

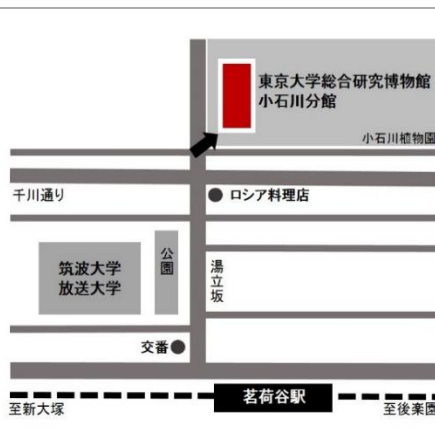
脚のアーキテクチャ

久保 泰



(上)イリエワニの足跡採取、(左下)ヒョウモントカゲモドキの歩きかたの分析、
(右下)ガビアルモドキの足跡採取

現在の地上を歩く動物には、サンショウウオやトカゲのようにお腹を擦りそうな歩きかた（はい歩き型）から、クマのように脚をお腹の下で振り子のように振る歩きかた（直立型）、さらにはイヌやネコのようなつま先立ちの歩きかた（指行性）、ヒトやトリのような二足歩行まで多様な歩きかたが見られます。約2億5000万年前から2億年前の三畳紀という時代に、はい歩き型しかいなかった動物の中から直立型や二足歩行、指行性等の多様な歩きかたが出現しました。これらの新しい歩きかたが、なぜ、どのようにして出現し、どのような利点があったのかについて、化石と現生動物の研究から明らかになってきたことをお話しします。



東京大学総合研究博物館小石川分館

〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1
Tel. 03-5777-8600(ハローダイヤル)

開館時間: 10:00-16:30 (入館 16:00 まで)

入館料: 無料

休館日: 月・火・水曜日

(いずれも祝日の場合は開館)、年末年始、その他博物館が定める日

アクセス: 地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅より徒歩 8 分

<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/architectonica/index.jp.html>



久保 泰 (くぼ たい)

東京大学総合研究博物館
特任助教(専門: 古生物学)

専門は恐竜を含めた中生代の爬虫類。特に初期の恐竜や同時代の陸棲四肢動物の歩き方の進化を研究している。中生代の爬虫類の発掘や記載なども行っている。



ガラパゴスゾウガメの足跡採取

建築博物教室とは？

「アーキテクチャ」をテーマにさまざまな分野の研究者が講演を行い、関連した標本を「アーキテクトニカ・コレクション」として展示していくシリーズイベントです。

建築ミュージアム / アーキテクトニカ

KOISHIKAWA Annex.

UMUT

東京大学総合研究博物館小石川分館